

第2回作業部会における議論の主要ポイント

No.	観点	おおむね合意された事項	備考
1	スパイラルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 取組レベルの向上は義務とはしない 	<ul style="list-style-type: none"> 目安として、認証取得回数1～2回を「第1段階（導入）」、3～5回を「第2段階（発展）」、それ以上を「第3段階（継続的発展）」とする 「第1段階（導入）」に留まり続ける事業者が現れるリスクはあるが、審査人のアドバイスによって向上へと働きかける 「環境経営レポート作成・活用マニュアル」に即した審査人向けのガイドも作成し、スパイラルアップの趣旨を審査人に適切に理解してもらう ガイドライン新第1章で説明する
2	環境経営レポート作成・活用マニュアルの趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営レポートは外部公表を前提としているが、マニュアルや審査人のアドバイスを通じて、環境経営に関するスパイラルアップも図る 	<ul style="list-style-type: none"> 外部公表と内部管理との差異に留意する（事業者として内部管理には用いるが外部公表できない情報等） 環境経営レポートの側面から、環境経営本体でのスパイラルアップも狙うのがマニュアルの趣旨である
3	認証範囲	<ul style="list-style-type: none"> 原則として「全組織・全活動」とする 	<ul style="list-style-type: none"> 認証範囲を組織図等で環境経営レポートに明記する ガイドライン外（全組織・全活動とできない理由について、審査人が中央事務局に提出する審査コミュニケーションシートに記載する） ガイドライン外（一部組織認証の場合には、認証登録証にその旨明記する）
4	用語	<ul style="list-style-type: none"> 取組レベルについて、「初級」「中級」「上級」という用語を用いない 	<ul style="list-style-type: none"> 代わる名称を今後検討するが、現状は「第1段階（導入）」、「第2段階（発展）」、「第3段階（継続的発展）」で仮置き
5	用語	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動計画ではなく、環境経営計画とする 	<ul style="list-style-type: none"> 方針、目標、計画の全てに「環境経営」を冠することで統一
6	用語	<ul style="list-style-type: none"> 「課題とチャンス」で統一する 	<ul style="list-style-type: none"> 「リスクと機会」は使用しない
7	用語	<ul style="list-style-type: none"> 「審査人」の名称案は第3・4回作業部会で検討する 	